第7回日本認知症予防学会学術集会報告

The 7th Annual Meeting of Japan Society for Dementia Prevention

会長 阿部 康 二 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 脳神経内科学)

Koji Abe (Department of Neurology, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences)

この度、第7回日本認知症予防学会学術集会を2017年9月22日～24日、当科の阿部康二教授が大会長として、岡山コンベンションセンターで開催いたしました。日本認知症予防学会は「アルツハイマー病を始めとする様々な認知症予防を進めるため、認知症治療に携わる医師のみならず介護施設の職員や自治体の担当職員など多職種の人が集い、認知症への理解を深めていくこと」を目的として毎年日本国内で開催されてきました。最近の認知症予防に関心が集まっていることもあり参加者数が急速に増加してきており、さらに認知症予防のエビデンス構築ならびに地域における認知症予防を実践するための認知症予防専門士制度を確立しその普及も行っている学会です。

第7回に当たる本学術集会では、阿部会長がメインテーマとして『認知症予防の確かなエビデンスへ』を掲げ、トランスレーショナル医学分野を含めた先進的な研究成果を積極的に取り上げ、職種をこえた様々な業種の人々が集まるシンポジウムやセッションを数多く企画しました。その結果、招待講演7演題、シンポジウム51演題、一般口演169演題、Hot topics等を含めて合計247演題、参加者数1,232名とこれまでで過去最大の演題数、参加者数となりました。

招待講演には虎の門病院院長 大内尉義先生より「高齢者の新しい定義：その背景と意義」というタイトルで御講演をして頂きました。また、各学会場では立ち見がでるほどの盛況で非常に活発な発表と討論が行われ、主催側としては急遽椅子を増やしたり時間の調整に追われることが度々おこるほどでした。新聞社やテレビ局などの取材も計6社入るなど、認知症予防や本大会に対する注目度の高さも再認識させられました。

またこれも阿部会長の発案で、「アルツハイマー病再考」というテーマを掲げた特別シンポジウムが23日に開催され、3時間30分という長時間にもかかわらず会場は常に満席で、認知症予防に関する多くの提言があり、熱い議論が交わされました。

23日の全員懇親会では岡山のグルメを紹介すべく、岡山が誇る千屋牛ローストビーフや吉田牧場チーズのコーナーを設け、また特級B級グルメコーナーとして、B-1グランプリで有名となった蒜山「風」焼きそばが振舞われました。また学会理事の先生方から寄贈された全国の銘酒が会場内特設コーナーに準備されました。会場内の移動が一時困難なほどの盛況ぶりでしたが、参加者はそれぞれのグルメやお酒を食べ比べ飲み比べながら、交流を深めることができました。

全4会場ともほぼ満員となり活発な議論が交わされました。(左：第1会場での会長講演、右：第2会場でのシンポジウムの様子)

シンポジウムだけでなく全員懇親会も盛り上がりました（左：第3会場でのシンポジウムの様子，右：全員懇親会で全国から持ち寄られたお酒を楽しむ参加者）

このように本総会が大変盛り上がりかつ有意義な学会となったことは、御協力頂いた医局員と秘書、関連病院、共催企業の皆様のお陰と、本当に深く感謝しております。この会で得られた知識とパワーを源に、岡山から今後もっと情報を発信できるよう日夜努力していく所存です。

（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 脳神経内科学

山下 徹）

平成29年10月11日受稿

〒700-8558 岡山市北区鹿田町 2-5-1

電話：086-235-7365 FAX：086-235-7368

E-mail：toruyamashita@okayama-u.ac.jp